

令和3年度富山市安全で安心なまちづくり推進協議会 議事録（会議概要）

1. 日 時 令和3年10月6日（水）  
午前10時30分から午前11時30分まで

2. 場 所 Toyama Sakuraビル 5階 大会議室

3. 出席者

会 長 兜山 邦宏 （富山市自治振興連絡協議会）  
副会長 岩瀬 由明 （富山北部防犯協会）  
委 員 大西 貞夫 （富山市身体障害者福祉協議会）  
青山 和也 （富山市PTA連絡協議会）  
笹倉 萌 （富山大学生）  
佐藤 文香 （富山国際大学）  
辻澤 亮子 （富山市認定こども園協議会）  
高瀬 祐子 （富山市小学校長会）  
池淵 直人 （富山市中学校長会）  
小林 由美子 （富山南防犯協会）  
山田 純 （富山中央警察署）

事務局 岡地市民生活部長、渡辺市民生活部次長  
生活安全交通課 小善課長、竹内主幹、坂田課長代理、川原副主幹

4. 内 容 ①開 会  
②あいさつ 岡地市民生活部長  
③役員選出 兜山委員を会長に選出  
岩瀬委員を副会長に選出  
④報 告 令和3年上半期の犯罪発生状況について  
⑤議 事 富山市安全で安心なまちづくり推進条例に基づく  
令和3年度の取り組みについて  
⑥閉 会

## 5. 審議概要

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | 令和3年上半期の犯罪発生状況について説明  |
| 議長  | 1番上のグラフについて、刑法犯、認知件数の推移とある。富山市の場合、令和2年が2246件、10年前の平成23年は3217件である。平成23年7月からこの条例が施行され、ちょうど今年で10年になる。この間、件数がずっと右肩下がりであり、少しずつ減っている。良い傾向だと思う。当局のほうで色々と苦勞して実施した事業が、功を奏していると思う。当局の見解を問う。   |
| 事務局 | 平成23年の条例制定以降、防犯協会、その他ボランティア団体等の力を合わせ、官民一体となった取組みを進めるとともに、本市においては、公共的空間防犯カメラ設置等事業として、通学路の幹線道路等にカメラを多数設置している。また、各町内会等が設置する防犯カメラへの支援も実施しており、市だけではなく、警察、防犯協会、その他ボランティアの皆様の力を得た結果、犯罪認知件数がこれだけ減少したと考えている。   |
| 議長  | このように減少が続いてほしい。良い傾向だと思う。  |
| 委員  | 資料中2番の令和3年度上半期の刑法犯認知件数について、令和2年度上半期から令和3年度上半期にかけて微増している。一方、3番目の令和3年度上半期の県内主要街頭犯罪等認知件数の下の表について、主要街頭犯罪7種はかなり減っている。このことから、その他の犯罪の件数が、かなり増えているという認識で良いか。  |
| 事務局 | 事務局から富山県警察に、この資料の照会をしている。指摘の通り、配布した資料以外、例えば粗暴犯と呼ばれる暴行、傷害事件などが増加していると推察される。また、凶にもあるように住宅対象の侵入や窃盗も、昨年同比に比べれば約2倍の発生件数となっている。以上のことから、この種の犯罪について、今年の上半期については増加しているという説明を受けている。   |
| 委員  | 資料中4番の令和3年度上半期の声かけ、つきまとい事案の件だが、重度障害者の方で、道を聞こうとしても言葉が出にくいことがあり、「つきまとい」「嫌がらせ」みたいなことを言われたと聞いている。こうした事柄は、徐々に人との付き合いが無くなり、安全にも影響が生じてきているのではないかと。私も時々声をかけているが、小学生が逃げていく。そのほか、中学生が自転車で堂々と2列で走ってきて危ないときに、注意や声掛けをするが、嫌がらせを言われることがある。そのような事柄は、資料に含まれていないよね。このことから安全で安心なまちづくりのため、人と人、つまりフェイス・トゥ・フェイスをもう少し心がけていく必要があるのではないかと。と思う。 |
| 事務局 | 富山市安全で安心なまちづくり推進条例に基づく令和3年度の取り組みについて説明。   |
| 議長  | デジタルサイネージとは、どういったものか。   |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | この近くでは、市役所1階の市民課にある、縦1間半・横半間くらいの大きさの、映像を流せるビジョンのことです。富山駅に3台あり、そちらに映像を流している。  |
| 議長  | 帰りを見ていく。<br>もう一つ、資料3の7ページ、無施錠被害の防止対策のグラフがある。この中の折れ線グラフの無施錠被害率とあるが、この棒グラフは被害件数なのか？「率」となると、分母と分子は何か？   |
| 事務局 | 無施錠被害率については、全体認知件数の中で無施錠が原因となって被害にあったものの割合になる。グラフから、平成21年と比べ、令和2年の認知件数が圧倒的に少なくなっている。この中で無施錠被害も減ってはいるが無施錠の割合は上がっている状況ではある。当初、無施錠被害率について、警察等が公表を始めた際には、犯罪認知件数自身が非常に多くなっている状況下で、なんとか被害件数を減らすために、犯罪被害の中でも被害を防ぐことができる無施錠被害というものを少しでも減らそうという趣旨のもとで、統計を公表していたと思う。その中で市や県、ボランティアの皆様方の活動、そして委員の皆様方のご提言等から、犯罪認知件数が減少したが、今でも無施錠被害がこれだけあるという認識のために、資料として作成している。  |
| 議長  | 例えばこの1番上の富山県の自転車盗の無施錠被害率のグラフで、令和2年は71.6%という数値があるが、無施錠の自転車の71.6%は被害を受けていると理解してよいか？  |
| 事務局 | これに関しては、自転車盗が盗まれた総件数の中で、71.6%の自転車が無施錠であったということである。   |
| 委員  | 1つはお願いで、もう1つは質問になる。資料3の4ページの(3)の、富山県の子どもに対する声かけ・つきまとい事案発生件数について、委員から指摘があったように、例えば朝「おはよう」とか声をかけても無視されるようなことが多くあると聞いている。同じ小学校のPTAの役員であっても、それがもう不審者という扱いを受け、通報されたケースもあると聞いた。これは非常にバランスが難しいとは思いますが、人と人との関わり、地域での関わりというのはすごく重要だと考える。子どもたちを犯罪から守るためには、人と人との関わり、子どもたちと大人の関わりをもっと、しっかりと地域の中で育てていく必要があり、しっかりと考えてほしい。<br>もう1つは、同じページの(1)の富山県の特殊詐欺被害者の年齢の表だが、令和2年、令和元年、それ以前はどういう推移なのかはわからないが、被害者数は減っていないと思う。特殊詐欺に関してはTVCMもあるし、色んなところで警鐘は鳴らされているにもかかわらず、減っていないということは、新しい手口などが原因と考えるが如何か。 |
| 事務局 | 警察からの説明・指導等からの答えであるが、特殊詐欺については、増減を繰り返しながら、最大時からかなり減っている状況である。ただ、ご  |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>指摘の通り、手を変え品を変えの世界なので、いたちごっこである。今年も言えることだが、昨年についてはコロナの関係で在宅率が上がっていることが、特殊詐欺の件数増加に繋がった一因であるのではないかという意見も出ていた。本市としては、資料に記載があるように、通話録音装置の無償貸与や各種広報によって被害防止に努めている。これは県でも富山県警察においても同じように、広報活動に努めているが、グラフにもあるように、高齢者への周知が未だ徹底できていない状況である。</p>   |
| 事務局 | <p>特殊詐欺の関係だが、富山市では消費生活センターを設けて、消費者被害に対する相談を受けている。こちらの相談件数も横ばい、もしくは微増というような状況になっている。ただし、富山市の場合に限った話だが、ここ数年だけの動きを見るだけでは、難しいところがある。やはり波をうったような数字になってきている。今ほど話があったように、同じような手口を少し変えながら、落ち着くとまた少し発生するようなケースを繰り返している。近年では新聞報道などでもこうした被害については報道されている。また、色んなところでキャンペーンも行われている。被害者の方も頭の中では理解しているが、現実問題としては、そうした電話がかかってきたときに、きっちりとした対応ができない。このあたりのことについては「こういった事件があったよ」と繰り返し伝えるしかない。一人で抱え込まないということを基本としながら、通話録音装置といったようなものなどの利用も、本市だけでなく警察の方も、呼びかけているというのが近年の状況である。</p> <p>もう一点、本日の会議は防犯といったことになるが、人々のつながりの中でどう解決していくかということも重要である。消費関係の取組みではあるが、そのような被害にあわないということについて、周りの人が見守りながら進めていくというような、ネットワーク作りにも少し着手している。冒頭のあいさつでも申したが、本市としては、いかにして一人一人の気持ちの中で防犯的をしっかりと根付かせていき、自分だけではなく、相互の見守りの中で回避していくことに取り組んでいきたいというのが私たちの考えである。</p> |
| 委員  | <p>この資料に直接関係ないが、日頃やっていることを紹介したい。今年、新型コロナで研修会や会合の数が少なかった。富山県では令和2年9月に、富山県安全なまちづくり条例に基づく、防犯上の指針が改訂された。私は資料を見てこれは非常に良いことであり、色んな書面研修会も含めて、役員や防犯関係者に知ってほしいと思い、資料を配っている。ある地区では、その中に、ホットスポットパトロールがあり、今までのランダムパトロールからホットスポットパトロールの形態に変えた地区もあった。</p>  |

|    |   |
|----|---|
| 委員 | <p>中学校の現場としてよく、コンビニエンスストアの方から「防犯カメラを見てくれ」と言われる。これを見て「これはあなたのところの生徒ですか?」と聞かれることがある。やはり個人情報なので私らも「そうです。」とは、答えることができない。警察の方の捜査依頼というかたちであれば協力できるが、コンビニエンスストアの方から直接「ちょっと来てくれ」と言われても、なかなか協力できないということを知ってもらいたい。例えば、万引きの現場をおさえて「先生、来てくれ」というわけになるが、私らは警察ではないので、呼ばれても保護者とともに指導するだけになる。そういった時は、警察の方を呼んでいただいて、警察で何か一言、指導があったほうがいいのかと思う。個人的な意見だが、万引きは再犯性が高いと感じている。資料にもあるが、件数は多いが、人数的には少ないのではないかと考えている。そういった時に、学校だけの力では限界があるので、警察の方の力を借りて何とか犯罪を減らしていきたいと考えている。ご協力よろしく申し上げます。</p>  |
| 委員 | <p>先ほどから人と人との繋がりのお話も出てきたが、やはり「安全で安心なまち」ということで、犯罪を少なくするためにも、日頃から地域の方々と子どもたちがあいさつを通して、心を通い合わせることができればいいなと願っている。保護者や地域の方から「以前は校区であいさつをしてくれる子どもがたくさんいたのに、最近減ってきて寂しい」という意見を聞くことがある一方で、「不審者情報が頻繁に教育安全メールで送られてくるので、知らない人には声を掛けられても返事をしたらだめだよと教えているから、あたりまえじゃないか。」という意見もある。確かにそうだなということを考えるが、これは地域の方々と何か活動を共にし、顔見知りになることで心が通い合って、それがあいさつに繋がるのではないかと考える。例えば、地域の方に協力していただきながら、学校主催の行事を行うことや、児童クラブ主催の活動に積極的に参加するように声を掛けること等している。昨年度、今年度はコロナの影響で活動そのものが少なくなっているが、地域の方々と小学生が活動を共にすることを契機として、日頃のあいさつの活性化を図り、「安全で安心なまち」を作っていくということ、大切にしていけばよいのではないかと考えている。</p> |
| 議長 | <p>ありがとうございます。対面というか、顔がわかればどこかで会ってもあいさつはできるが、昨年、今年とコロナでマスクをする必要があり、顔が分かりにくい。よく聞くのは、小学校に入ったが、大げさだけれども先生の顔をちゃんと見たことが無いという。そういうこともあり、マスクは邪魔である。この状況下でどうやってお互いに顔を知り合うかというのは、工夫が必要だと思う。</p> <p>本日は色々ご意見いただき、ありがとうございました。これからも委員全員で、富山市が実施する、犯罪のない、安全で安心なまちづくり実現</p>  |

に向けての施策を見守りながら、必要な意見について事務局に伝えていきたいと考えている。委員の皆さまにおかれましては、何か意見等があれば遠慮なく、事務局伝えていただければと思う。

以上をもって、議事を終了いたします。進行のご協力ありがとうございました。